新学長を支える副学長・部局長紹介

内部質保証を充実し、社会への説明責任を果たします

木村彰方
副学長（評価担当）

大学には認証評価機関による認証評価を定期的に受審する義務があり、本学は２０１５年度に受審します。また、国立大学法人は文部科学大臣が示す中期目標に従って中期計画を策定し認可を受けますが、その実施状況については毎年度に文部科学省法人評価委員会による評価を受けています。これらの評価のいずれもが大学の実施する自己点検・評価に基づくため、大学は内部での質保証が求められています。本学は国立大学としての存在意義を社会に説明する義務を負いますが、内部質保証こそ説明責任を果たす基盤ですので、吉澤新学長の下、内部質保証のさらなる充実に取り組みます。

教職協働と愛校心の実現を目指して

近藤 弘
副学長（事務総括担当）

「世界に冠たる医療系総合大学を目指す」という吉澤学長の新たなミッションの下、事務職員の先頭に立って頑張っていきたいと考えております。事務系の仕事は、ややもすると受け身がちになってしまいますが、グローバル化を目指す大学として、教職協働の精神で事務の立場からも積極的に新しいことを提案し、実現させていきたいと思います。また、２０１６年度からは第３期の中期計画期間に入り、新たな局面を迎えることになると思います。このような大切な時期に責務を果たすため、吉澤学長、新執行部の下、邪心を捨てて愛校心をもって全力で仕事をしていきたいと思います。

本学のブランド力向上のための広報活動を推進

田賀哲也
副学長（広報担当）

世界トップブランドの医療系総合大学として、「ＴＭＤＵ」や「東京医科歯科大学」が真っ先に連想され、本学の継続的な発展に寄与する広報に尽力いたします。教育、研究、診療、社会・国際貢献に高い実績がある本学の魅力がステークホルダーの心に響き記憶に残る情報発信によって、ブランド力の向上を目指します。本学が地域社会に愛され世界に認知されるとともに、学生や教職員が「東京医科歯科大学に学び、勤めて良かった」という自校への誇りと愛着を深め一体感の醸成につながればと存じます。さらに本学のミッション遂行のプラスになる好循環が継続できるよう工夫してまいります。

世界トップレベルの研究拠点を目指します

眞峯隆義
副学長（URA担当）

我が国の発展の源は、その科学技術力を基盤とした新たなイノベーション創出力にあり、そのための中核的役割を果たす国立大学の機能強化の必要性が、強く認識されています。研究大学強化促進を目的としたリサーチユニバーシティ推進機構とその配下のＵＲＡ室は、関連分野・各センター等の研究者と連携し、東京医科歯科大学の研究力強化やトランスレーショナル研究の成果創出強化等を目指します。そうすることと同時に、これらの一連の活動に対するＰＤＣＡサイクルを適切に実行することによって、本学が世界のトップレベルの研究拠点となるよう貢献してまいります。

東京医科歯科大学の「基本理念」に沿って業務精励

谷本雅男
副学長（総括担当）

学長の指示に基づいて大学運営が円滑に遂行できるよう努めてまいる所存です。当面は、教職員、学生が快適に教育・研究・診療に打ち込め、また、受診される患者の方々にも安全で優しい、近未来におけるＴＭＤＵのキャンパスマスタープランを作成します。世界へ飛翔する「知と癒しの匠」の聖地にふさわしい計画を練りたいと考えています。さらに、学長が強く推進されています超高齢化社会に向けての健康長寿推進のための予防医歯学研究の体制整備および２０２０年東京オリンピック・パラリンピックへの本学における各種支援企画実施についても取り組んでいきたいと考えています。

明日の医歯学研究と歯科医療を支える人材育成

森山啓司
大学院医歯学総合研究科長・
歯学部長

急速な少子高齢化によって、国民の疾病構造は大きく変化してきています。また、長寿社会を健康に生き抜くためには、小児から高齢者に至るまで、各ライフステージに応じた健康増進が求められます。吉澤学長のリーダーシップの下で、大学院医歯学総合研究科では、医療系総合大学としての恵まれた研究環境を活かして、医学・歯学領域における新たな知の発見と、それらを社会に展開させる力を育てたいと思います。また歯学部においては、使命感をもって社会に貢献する歯科医療人の養成を行うとともに、国際的指導力をもって明日の歯学・歯科医療を担う人材を育成したいと考えています。

大学のガバナンス強化とグローバル化に向けて

江石義信
大学院医歯学総合研究科
副研究科長・医学部長

学長の強いリーダーシップと迅速な組織対応が求められるようになった今、医学部長として大学執行部と教授会や現場との間を仲介し、両者の意向や要望を調整しながら発展的な合意形成が図れるよう尽力します。最近は文科省、外務省、経産省からの外部資金を背景に海外拠点活動の活性化が著しく、特に南米における大腸癌プロジェクトやチリ大学とのジョイント・ディグリー・コース等は、本学の海外拠点校設立へ向けた第一歩になると期待しています。これまで国際交流担当副医学部長として海外活動に多くの時間を割いてきました。この流れを医学部長の立場からさらに強化したいと考えています。

生命理工学と医歯学の学際分野をけん引する人材を育成

影近弘之
大学院医歯学総合研究科
副研究科長・生命情報科学教育部長

医学、歯学を支える生命理工学分野の教育研究を担う生命情報科学教育部は、医歯学との融合教育を目的に、医歯学総合研究科生命理工学系専攻として２０１２年に新たなスタートを切りました。本専攻は、両附置研究所を母核として、学際生命科学東京コンソーシアム（お茶の水女子大学、北里大学、学習院大学との大学院連携）を活用し、高度な専門性をもち、国際的に活躍できる人材を育成しています。２０１４年からは疾患予防科学をキーワードとして、多くの企業や公的機関の方に教育へ参画していただき、真に社会が必要とする博士人材の輩出を目指す新しい大学院教育も進めています。

保健系分野の水準向上を担う教育・研究者の育成

戸塚 実
大学院保健衛生学研究科長

本研究科の使命は、看護および臨床検査分野のパイオニアとして、日本の医療における両分野の質を一層向上させることです。そのためには、高度な専門知識と技術に加え、医療人としての優れた人格と高い倫理観を備えた人材の育成が不可欠です。これらを実現するために、医療人マインドをもち、それぞれの分野に高い専門性を有する、優れた教育・研究者の育成に努めています。また、「世界に冠たる医療系総合大学」を目指す東京医科歯科大学の一部局としての自覚をもち、他分野連携による教育・研究の質向上を目指すとともに、国内外教育研究機関との連携強化を一層推し進めていく所存です。

グローバル化に対応した教養教育を目指して

清田正夫
教養部長

世界に通用する医療人になるためには、専門教育で獲得する知と技に加えて、様々な文化や多様な世界を理解できる教養と、他者を理解するための人間としての力が求められています。そのため教養部では、学部・学科の別なく全学生が共に人文・社会・自然・外国語系の科目を学ぶことにより、医療人に必要な高度な倫理観、自ら問題を見つけ継続して学ぶ力、国際的な医療人に必須のコミュニケーション能力を身に付けることを目指しています。私たち教養部教員は、これまでの良き伝統を活かしつつも、グローバル化する社会に対応した新しい教養教育に取り組んでいきます。

医・歯・工の連携による先端研究を推進します

宮原裕二
生体材料工学研究所長

生体材料工学研究所は文部科学省ミッションの再定義により、生体材料・生体工学を扱う工学分野の附置研究所として位置付けられました。医学、歯学、工学の融合分野で研究領域を開拓し、最先端の研究成果を情報発信するとともに、産学連携を通して本学発の材料・技術の実用化、国際連携による優秀な研究者・留学生の確保、若手研究者・大学院教育、他大学とのネットワーク構築などの強化を推進していきます。医療系大学の中に設置されているという特長を生かし、医学系、歯学系の先生方との交流・共同研究を深め、医歯工連携を積極的に推進して特色ある医療系総合大学の実現に貢献します。

リサーチユニバーシティにおける難治疾患研究の使命

石野史敏
難治疾患研究所長

難治疾患研究所は難治疾患にかかわる最先端の基礎医学研究を推進することを使命としておりますが、２０１０年より全国共同利用・共同研究拠点の１つ〝難治疾患共同研究拠点〟としての活動も続けています。昨年、本学はリサーチ・ユニバーシティに選定されましたが、吉澤新学長からは、拠点活動強化により本学医学部・歯学部および両附属病院における研究活動の効率的支援を図るようにとの命を受けております。学内の疾患バイオリソースセンター、実験動物センターなどとの協力体制を整備し、より良い研究環境を提供することで、その責務を果たしてまいりたいと考えております。

病院機能を最高度に発揮するため現場力の充実を

木原和徳
医学部附属病院長

病院は人体のように、優れた中枢（方向性）と優れた臓器（診療現場）で、最高度の機能が発揮されますが、この現場力の格段の充実を、「連携」と「評価」をキーワードに目指したいと思います。医科と歯科の多方面での連携、診療科・中央診療施設・看護などの重層的な連携、医療従事者間の多様な規模の連携を促進し、院内媒体で情報を共有しながら、やりがいのある環境の下で総合的な病院力向上を図りたいと思います。また、各部門の優位性「ウリ」の構築を推進し、これらを集約して（書籍として）本院の魅力を広報しつつ、国内外の患者さんに高く評価される医療環境の構築と洗練を目指します。

歯学部附属病院と医学部附属病院の連携推進に尽力します

嶋田昌彦
歯学部附属病院長

吉澤新学長は、これまで医療担当理事として歯学部附属病院と医学部附属病院の連携強化に努力されました。今後は両病院の連携をさらに推進していくよう努力いたします。例えば、医学部で手術を受けられる患者さんの周術期の口腔ケアや頭頸部と顎顔面口腔領域のがん治療の連携、さらに医療情報の一元化など、患者さんがスムーズに両病院で診察を受けられるように進めていきたいと考えております。また、吉澤新学長が推進されております長寿健康推進センターへの協力体制や２０２０年の東京オリンピックに向けた本学の医療体制への貢献にも積極的に参画できるよう努力してまいります。Ⓑ